

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホームふるさと
所在地 (県・市町村名)	三重県津市戸木町4113-56
記入者名 (管理者)	谷口 貴成
記入日	平成20年3月25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームは、職員全員で理解し、実践できる理念『笑顔』と決めた。	○ 昨年度の目標・理念がどこまで実践されたかを検討し、反省すべき所は今後活かしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	皆の目に付く場所に職員の顔写真とともに思いも提示しており職員同士「笑顔、笑顔」と声をかけあい業務を行っている。	○ 業務が中心になり、理念や目標が忘れがちにならないように、全体会議などで話し合うようにしていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	当グループホームをはじめ、関連施設共同で開催する夏祭りに地域の方々も参加していただき、施設の生活を理解していただくよう努めている。家族会の場でも管理者から説明している。	○ ご家族には、家族会や面会時、電話等でお話を通して、コミュニケーションを図り、理念や役割について理解していただくよう努めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	当ホームは団地の中にあり、入居者の散歩コースは団地内である。出会う方とおしゃべり、飼い犬との触れ合いも見られる。また、団地の方が、手編みの帽子を持って、訪ねに来てくださる事もある。	○ 去年までは当ホームの建物を地域の自治会等の会場として利用していただいていたが自治会への参加もさせていただいており、当ホームの事も少しずつ理解をしていただいている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の会議等がある際は当ホームの一階ホールを利用していただいている。夏祭りなどの大きい行事には自治会、地域の方々も参加していただき交流をしている。	○ もっと地域の方との交流できる機会を持てるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在のところ、具体的な取り組みは行っていない。	○	地域の方との交流のなかで介護相談や福祉サービスなどの情報を知らせていく。将来的には関連施設と協力して、介護教室や介護相談などを開催していきたい。
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	現場を中心に毎年の評価、監査等でご指摘を受けたことを中心に、改善に努めている。	○	自己評価、外部評価、監査を受けての改善だけでなく、職員の研修や他施設の見学を通じて情報を吸収し、施設及び業務の改善に努めていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度一度実施している。今年も3月の予定である。	○	まだ取り組み始めたばかりではあるが今後も地域自治会、市役所、地域包括支援センター等との連携を深めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者が市役所等と連絡している。	○	運営者のみの連絡ではなく、個々の利用者が抱える諸問題等を市役所、地域包括支援センターの皆様と一緒に考えていく中で解決し連携を深めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在のところ、地域福祉権利擁護事業、成年後見制度を利用している入居者はいない。	○	地域福祉権利擁護事業、成年後見制度だけでなく、生活保護法など、利用者の権利や利益になる福祉サービスを紹介していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者間、入居者と職員の間で誤解や行き違いが生じても時間をかけて話し合い、決して暴力に発展しないように努めている。	○	今後は、高齢者虐待防止法や障害者、児童などの人権問題にも職員全員が学習する機会を設けていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実際は入居できるか否かの一点で入居前の面接がなされ、利用者、家族とスタッフ側との十分な意思疎通のないまま入居される方が多く管理者にも情報が伝わってこない事がある。	○ 事前調査表は現場で作成したので早い段階で管理者と現場スタッフも調査に同行できる体制を作っていきたい。将来的には体験入居を実施して当グループホームの生活を知らせていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在のところ、入居者からの苦情は、管理者が中心となりその都度、話し合い、解決法を検討している。その中で家族にも協力を求める場合もある。	○ 外部にも気軽な気持ちで意見、不満、苦情が言える施設の雰囲気を作っていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	大切な事柄は、管理者が中心となって面会時や電話連絡で家族に報告している。また職員間には連絡ノートがあり、入居者、家族に対して統一した連絡、報告が出来る様にしている。	○ 『ふるさと新聞』を発行して、家族にホームの様子を知らせており、関心が高いのでこれからも充実させていく。日々の体調の変化等も状況に応じて報告している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、自由に記入していただいている。面会時の家族への個別の対応も職員が中心になって行っている。	○ 入居者が職員に遠慮せず意見が出せる雰囲気作りをするとともに、ご家族には、面会時や家族会などで意見を出していただけるよう努めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の全体会議には管理者と職員のみで運営者は参加せず現場の意見がなかなか運営に反映されていないのが現状である。	○ 現場の意見、要望を報告・伝達して、運営者に現状を理解してもらい、ホームの改善につなげていきたいと考えている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務の調整は管理者から個々の職員に指示し調整をしている。管理者も通常の介護業務に就かないと回っていかない現状である。	○ 入居者に満足した生活を保障し、入居者の状況変化に対応していくために必要な職員を確保していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ようやく職員の入れ替わりが少なくなり落ち着いてきて、入居者との関係が継続できるようになってきた。	○ 職員の入れ替わりを少なくし、馴染みの職員を増やしていきたい。職員の離職が理解できる入居者にはそれとなく説明していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常業務に従事する職員数を確保するのが精一杯で、外部の研修に出席する余裕がないのが現状である。	○ 全職員が研修等に参加できる勤務体制、職員数を確保するよう努力したい。研修開催案内の情報を知りたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流がないのが現状である。	○ グループホームとの交流や情報交換などは重要であり、研修会も含めて積極的に取り組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の休憩場所、夜勤者の仮眠場所もないのが現状である。	○ 職員同士の話し合いで少しでもストレスが軽減できるようにしている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	介護支援専門員、介護福祉士などの資格取得を奨励している。会社からの支援はなく、職員は個人の努力で資格取得をしている。	○ 意欲のある職員には、資格取得に向けた支援を行い有資格者には、その専門性が活かされる職種や業務ができる体制を作っていきたい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	運営者が事前調査に自宅訪問し、入居判定調査表をもとにお話を伺っているが、面談が少なく、御本人をほとんど把握できていない現状である。	○ 事前調査は、必ず現場の職員が実施する事にし、事前調査以外の新書類を作成したのでその書類も活用して、より的確に御本人を把握できるように努めたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居を前提にご家族との面談を行っているのが現状である。	○ 介護されている方の大変さ、困難さを充分伺うようにして、そのことについてご家族、職員と一緒に検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設利用を希望される方がすぐ入居されるわけではなく、身体状況などを考慮し、関連のあるショートステイを利用していただくよう対応することもある。	○	本人、家族の方が困っている現状や希望をもとに、今必要な施設サービス、在宅サービスを本人、家族と一緒に検討して問題解決につなげていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前調査に行った運営者の判断により、家族の意向のみを聞いて入居されるケースがあり、納得できていない本人は入居直後はパニックになることがある。管理者や職員はその対応におわれながら、心を痛めている。	○	初めからグループホームのみの入居ではなく、体験入居や同じ建物にあるデイサービスを利用しながらグループホームの職員、入居者と顔見知りになられてから入居していただく方法も今後検討していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が知らない入居者が子供の頃の唱歌を覚えてもらったり、戦争体験の話の聞いたりしている。料理に関してもいろんな知恵を学んでいる。	○	入居者の今までの暮らしぶりが、活かされる日課や行事をもっと考えていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時のご家族と職員との会話から職員の知らない本人の一面を教えていただいたり、入居者の訴えや行動などに対して、家族と職員が一緒に解決策を検討している。	○	面会時やクリスマス会や夏祭りなどの家族も関われる行事の計画をどんどん施行していきたい。それにより『ふるさと新聞』の発行も活かされると考えている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族への不満を訴えられる入居者には、傾聴した上で、家族から見放された、という思いが少しでも軽減されるよう対応している。	○	これまでの生活歴の情報収集・把握し、お互いを理解した上で、良い距離が保てるように努めていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣在住の方が少なく支援できていないのが現状である。	○	遠くに暮らしている方には手紙や電話で近況を知らせている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員も話の輪に加わり、中間的な意見を交えたりしながら、皆が会話に入れるように声掛けしたり、洗濯物を干したり、たたんでもらう等、連帯して一つの事に取り組む時間を作っている。	○	入居者同士の関係構築への側面的なサポートに努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在のところ、そのようなケースはない。	○	現在のところ、そのようなケースはないが、退去された入居者や家族から相談などがあれば、対応する準備は出来ている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から一人一人の言葉に耳を傾け情報収集し、職員間で話し合い、共通認識をもつよう努めている。	○	入居者一人一人の希望や思いを全職員が把握しつつ、日々の支援を行っていききたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者との雑談の中で、昔の話を伺ったり、家族が面会された時にも入居前の様子を伺っている。	○	把握することで、できるだけ継続ある生活を送ってもらえるよう支援していききたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送りや、職員間の連絡ノートで、入居者一人一人の行動や生活リズムの把握に努めている。	○	把握した情報を、一人一人のケアへ確実につなげていききたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月に一度作成する介護サービス計画書は、本人の意向を元に、それぞれの職員が持っている情報を総合して、作成している。	○	自分の希望や意思を伝える事が困難な入居者の『介護に対する意向』を的確に把握していききたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護サービス計画書は3ヶ月書き換えてはいないが、毎日の申し送り、連絡ノートで個々の入居者の変更した支援方法を把握し、実際の介護に活かしている。	○	今後は、状況の変化によって直ちに介護サービス計画書が必要か否かの検討も考える。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人のカルテ、業務日誌の記入とともに、職員間で個人の情報の共有に努めている。また職員間には連絡ノートがあり、全職員が目を通すとともに、申し送りにより、情報の共有、変更された介護計画の実践に努めている。	○	各個人のカルテ、業務日誌、職員間の連絡ノートは、介護サービス計画書を作成する上で重要な資料であり、これからも重視していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当グループホームの関連施設には、ショートステイ(短期入所介護施設)があり、当ホーム利用者の状況に応じてショートステイを利用していただいたり、また、利用者が入院した際、退院から入居までの療養にも利用したりしている。	○	当ホームの関連施設には、他にグループホームがあり、個々の入居者の意向、心身の状況等により、可能な限りその人にふさわしい暮らしが出来るグループホームで生活していただけるよう、管理者が中心になって連携して運営している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営者が地域の民生委員、自治会長等と連携している。定期的にボランティアの方に来ていただいている。	○	民生委員、警察、消防等の関係機関との協力は運営者が行っている。歌のボランティア『ふるさと歌おう会』として月に一回先生にきていただいている。今後も続けていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	医療ケアや他施設を希望される入居者のため、療養型病院や老人ホーム等を訪問し、資料や情報を提供した例がある。	○	入居者、家族の方の希望に沿うような、福祉サービス、事業所などの提供をしていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところなく、入居者の意向等に関しては、家族と施設職員のみでの解決となっているのが現状である。	○	運営責任者、管理者が地域包括センターは勿論、他の事業所との連携を深めていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を主治医とすることを原則としているが、個人の意向の尊重、病状等により、必要な他の医療機関を受診できるよう配慮している。	○	協力医療機関以外は家族同行の受診であり、本人と家族の判断で決めてもらっているが意見が相違した場合、お互いを尊重した上で適切な医療を受けられるよう支援に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>専門医との連携を深め、サービス担当者会議等にも専門的な意見を出していただけるようにしていきたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>グループホーム専従の看護師の採用を検討していきたい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>入院時の状況や入院中の様子は、常に職員に報告している。その報告をもとに、ホームに戻ってからの生活が支障なく出来るよう準備している。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>重度化、終末期について、当施設で対応できること、対応できないことを個々の家族と一緒に検討していきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>重度化、終末期について、当施設は、どこまで対応できるのか、職員間で検討していきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>退居後も新しい入居先のスタッフや家族と連絡をとり、入居者本人の様子を把握していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の名を呼ぶ時は、必ず『○○さん』と固有名を呼ぶことを徹底している。また、入居者の近くで職員間の伝達が必要な時は、『Nさん』などイニシャルや居室番号で表現している。	○ 入居者のプライバシーを損なったり、個人情報の取り扱いには充分注意している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	管理者、現場の職員は、入居者の希望や訴えを聞き、出来る限り希望に沿うようにしているが、無理な場合は納得してもらおう説明している。また、職員一人で解決できない問題は、職員全員、家族と相談しながら、本人に応えるよう努めている。	○ 入居者の希望に添いたくても、運営上、建物の構造などにより添えないことがあるが、皆で知恵を出し合い、解決策を見出していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間的制約があり、一日の流れは大体決まっているが、入居者のその日の気分や、体調を優先し、活動への参加を促している。	○ 個々の入居者の体調の変化をしっかりと把握して今まで通り、活動の参加を促していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容は家族が連れて行かれる方もあるが、ほとんどの方は、ホームに来てくれる理容師さんを利用している。また、口紅をつける方や、外出時はおしゃれをする方もいる。身だしなみは、できるだけ個人を尊重し、不十分なところを、さりげなく直している。	○ 着替え時は、本人と相談しながら着る服を選んでいる。資生堂の方に来ていただき『メイク教室』を一度開催した。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員が行っているのが現状である。盛り付けや片付けを手伝ってもらっている。	○ 食事づくりの過程に入居者さんに少しでも参加してもらえそうな雰囲気づくりを実施していく(味付けを見ってもらうなど)。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物は、コーヒーや紅茶等が楽しめる。おやつは業者から届けられる様々な種類のおやつを工夫して出し、喜んで頂くよう努めている。	○ 希望を聞き、皆でおやつ作りを楽しむ機会を取り入れていきたい。飲み物など、一定の中ではあるが、選べる機会を作っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の身体状態に合わせて支援している。髪パンツの使用は極力控え、希望される場合は、トイレへの付き添い等、見守りをしている。	○ トイレの場所、排泄動作の仕方が分からない入居者、清潔保持が困難な入居者への対応は、今までの生活習慣などにヒントを得ながら取り組んでいきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間帯は個人の希望には合わせられないのが現状である。その日の気分や体調に合わせて、本人の意思を尊重し入浴の判断をしている。	○ 浴室が広くゆったりと入浴が出来る。当施設の特徴でもある温泉の湯を汲みに行き利用している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	散歩、入浴、食事など決められた時間はあがるが、本人の気分や体調により、自主的に参加、不参加を決めてもらっている。	○ 一人一人の安眠できる環境が違うと思うのでそれに合わせて支援していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	折り紙や歌など、趣味や特技に集中している方もいる。また、洗濯物をたたんだり、掃除機をかける等、自然に家事の分担がされていた。張り合いや気晴らしにもなっている。	○ これからも個々の趣味や特技を自然に活かされる環境作りを引き続き行っていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を持っている方もいる。外出時は逆に大事にされ使用されない。その場合預かっているお金で必要なものを購入している。個人で持っている方の中には、紛失や預けたのを忘れてしまい盗難妄想に発展することもある。	○ ホームでの生活に必要な物品を購入するお小遣いには、小遣い帳があり、毎回の出し入れの記録を記入し、月末にはレシート、残金の記入をし家族に送っている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出掛けたり、近くの公園にドライブしたりしている。	○ 希望をすべて応えることは出来ないが、出来る事は応えていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出計画を立てて、月に一度は外出行事を行っている。また、不定期ではあるが、ドライブにも行っている。家族には、年末年始の外出・外泊の声掛けをしている。協力してもらい家族と過ごす機会を作る支援をしている。	○ 個別の対応を実現していきたい。家族との関わり(つながり)を大切にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が直接掛ける事は出来ないが、職員が間に入り家族から掛けてもらったようにして取り次ぐ事はある。手紙を書かれた場合は、職員が預かったり、一緒に出しに行ったりしている。	○	年賀ハガキは、入居者が自分の家族に送るとともに職員も担当する入居者の家族に送っている。書ける方には、自分で手紙を出している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	午前9時から午後8時までの面会時間があり、家族や友人の方にも気軽に訪問していただいている。くつろげるスペースが少ないのが現状である。	○	地域の方にも当ホームの事を徐々に理解していただいているので気軽に立ち寄れる場を作っていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実施している。	○	これからも入居者との信頼関係の中で職員側の意思を伝え、絶対に身体拘束を避けていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っている。(職員の目の届かない間に外へ出られた事がある為)	○	玄関付近に職員がなるべく居るようにして、自動ドアをオープンにしておくようにする。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が居室に入室する際は、ノックをし、洗面台やトイレの掃除をさせて頂く時は本人が居室に居なくても、必ず本人に確認してから入室している。	○	職員の申し送り、調理の最中でも、入居者の足音や物音等にも注意して、入居者の様子や所在を把握していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	針など使用され、自己管理が不十分な方は、本人と職員とで話し合い、針の本数など、職員管理のもと使用してもらっている。	○	危険性を理解していただくのが目下の課題である。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	介護計画、日々の申し送り、連絡ノートを通じて個々の入居者の状態を把握して、事故を未然に防ぐように取り組んでいる。	○	基本的な知識を学ぶ機会が少ないので今後、勉強会を開催するよう検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の講習があったがまだ浸透していないのが現状である。	○ 全職員が応急手当や初期講習を受講できる体制を早くとっていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の自治会との間で、災害時の協力関係について連携をとり地域会議にも参加し議題としてあがる。地震体験車で震度7を体験した。	○ 定期的に訓練の実施も検討していく。普段から地域の方と顔見知りの関係を築いていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族への電話連絡、面会時などを通じて、入居者の現状、予想されるリスクについては報告している。	○ 今後も家族との連携を密にして、職員とともに入居者のことを考えていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の異変に気づいた時は、バイタルチェックを行い、状況に応じてかかりつけ医に連絡し指示を仰ぐとともに、必要に応じて職員同行し医療機関を受診している。(基本は家族が受診)	○ 入居者の急変に対して、的確な判断、対処をする為には専従の看護師が必要であると考えている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	当ホームには、一人一人の受診記録を記載した受診ノートと常備薬を整理したファイルがあり、薬剤の服用が原因と思われる体調の変化が見られるときは、処方した医師に報告し、指示を受けている。	○ 処方された薬の服用により、急変や異常があった時、的確に対応できるように医師、医療機関との連携を今まで以上に取っていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	状態を医師に報告し、下剤、緩下剤の服用調整の指示を仰いでいる。	○ 飲食物の工夫、運動などによる便秘解消へと心掛けていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一週間に一回ポリデントの施行。毎食後の口腔ケアの声掛け。認知症の症状により仕方が分からない方には、一つ一つ丁寧に指導している。	○ 提携している歯科の医師により口腔ケアの講習会を以前開催したが今後も検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態や希望に合わせてお粥、刻み食など個別に対応している。	○ 食事摂取量、水分摂取量を確保するために、入居者一人一人の好みも考えて調理の工夫をしていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出から帰った時のうがい、手洗いを実施している。食前、食後、おやつの前には、手洗いとアルコール消毒をしている。	○ 感染症マニュアルを作り感染症予防を徹底している。今後より一層意識を深めていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器、調理器具は漂白剤で消毒し、食材は、鮮度、賞味期限などを入念にチェックしている。	○ 湿気等を防ぐため、食器乾燥機の購入も今後、検討していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関が共同のため、グループホーム、デイサービスともに利用者同士、職員との関わりなど、交流が深まる利点がある。当ホームは正面に向かう形でサービスステーションがあり、訪問者をお出迎えできる構造になっている。	○ 気軽に入れる玄関作りをしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	サービスステーションのカウンターには季節の花を飾ったり、壁面には、季節に応じて桜や鯉のぼりの貼り絵を飾ったりして皆で、創意工夫して家庭的な雰囲気が出来るよう努めている。	○ 居室においては、自宅から今まで使用していたものを持参していただき、入居者それぞれに『私の部屋』という意識を持っていただくよう努めている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サービスステーション前の椅子に座って、おしゃべりや歌を歌っている事が毎日の日課になっている。気の合った入居者同士が互いの居室を訪問する光景がみられる。	○ 皆で一緒にする食事や共同作業の洗濯物をたたむ作業においても互いに助け合う場面が見られるので、大切にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた椅子や机や馴染みのあるものを使っている入居者もいる。	○	入居予定の方やその家族にも相談しながら居室の部屋作りをしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、全居室及びトイレ・洗面台の掃除をしている。少しでも臭気があれば随時、換気や掃除をしている。	○	温度計の客観的な事だけに頼らず、入居者が感じる温度感も重視していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建設当初は、車椅子での生活等を想定していなかったため、段差もあり、入居者に生活上の制限をしている面もある。設備は廊下やトイレの手すり程度であるが杖やシルバーカーの使用を促している。	○	物理的な空間には制限はあるが、入居者自らの工夫、職員の介助方法の工夫によって、充実した生活ができるよう努めている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	身体機能は自立していても排泄動作の順序が理解できない方にはトイレの場所や使い方を丁寧に教えている。また入浴のことを何度も尋ねてくる方には、その都度対応している。	○	入居者が分かっている、職員が分からない事柄などは、入居者から職員が学ぶという謙虚な姿勢で対応していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	グループホームの建物周辺には散歩コースがあり、当ホームは二階にあるのでベランダから景色が見える。毎年、夏になると花火を観ることができる。	○	歌や踊りのボランティア、運動会のような行事は、当グループホームだけでなく、デイサービスや近隣の方々と一緒にを行い、仲間の輪を広げていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)